



## 第1回三原臨空商工会 事業評価委員会 議事録

1. 招集通知日 令和6年4月11日(木)
2. 開催月日 令和6年4月25日(木) 午後1時30分～午後2時45分
3. 開催場所 三原臨空商工会2階会議室
4. 出席者 評価委員；  
①三原市商工振興課課長 恵谷元晴、②中小企業診断士 伊豆田 功、  
③日本政策金融公庫尾道支店長 津村政人、④広島県商工会連合会DX推進課長  
川相彰則、⑤三原臨空商工会長 梅本秀明、⑥副会長 平畑隆浩、⑦同理事  
増田洋一  
(欠席委員-副会長 小倉義春、専務理事 岡野 元夫、理事 平田 裕二)  
事務局； ①事務局長 中元一登、②課長 藤井忠昭、③経営指導員  
大元三幸、④経営指導員 中川貴洋、⑤経営指導員 今富裕太

### 5. 経過など

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 伴走型小規模事業者支援推進事業の事業報告について
- 3) 各委員からのコメント及びアドバイス
- 4) 令和6年度 事業見直し(変更)点など
- 5) その他
- 6) 副委員長あいさつ(閉会)

○経営発達支援事業の報告ならびに自己評価、更に次年度 経営発達支援計画の見直し  
について

#### 【議案の経過要領及び議決の結果】

定刻となり、司会；事務局長 中元一登は、第1回評価委員会を開催すると宣し、委員長の会長  
梅本秀明氏に挨拶を頂いた。続いて、出席者全員に自己紹介を促し、全員が自己紹介を行い、  
司会の中元事務局長は、梅本委員長に進行を委ねた。

【梅本会長】；梅本秀明氏は出席委員に対し、令和5年度の事業計画に基づき事業進捗状況の報告  
を行い、忌憚のないご意見を頂き充実した会議にしたいと述べ、経営発達支援事業  
の事業報告についての説明を事務局に求めた。

【事務局】(藤井課長 法定経営指導員)；

小規模支援法等に基づく経営発達支援事業の位置づけ、昨年度から5年間行政(三原  
市)との共同申請の基での経営発達支援計画についての主旨・概略等の説明を行い、  
各事業の詳細について配布資料に基づき経営指導員；大元三幸から説明がなされた。

【梅本会長】；続いて梅本会長は、事前に質問のあった外部委員の伊豆田氏から、

続いて津村委員からの質問が述べられ、これに対して事務局から説明を行うよう  
指示がされた。

【伊豆田委員】；以下の3点の内容について、説明が欲しいと述べた。

- ① 3. 経営状況分析の課題「支援ツールの共有」とは？
- ② 6. 新たな需要開拓の成果にある「手応え」とは？
- ③ 9. 地域経済の活性化に資する取組の三原プリンププロジェクト-~~(仮)~~-の今後の展望は？

【事務局】（大元指導員）；

- ① 支援ツールには、経済産業省がすすめる「企業の健康診断ツール」を代表として、(株)日本統計センターの市場情報評価ナビMiena、REASAS、審査辞典など有料・無料を問わず多くの支援ツールが存在する。職員同士もさることながら、事業者にとっても有益なデータが備えられているので、それぞれの特長や活用方法踏まえて、迅速かつ適格にツールの共有を図り、事業成功に結び付けばよいと思うと説明した。
- ② 東京ビッグサイトで開催される日本最大級のギフトショーやグルメショーへの出展支援を行った率直な感想である。最終的な商談・契約成立を目指して、出展支援した合計5事業者全員が、「展示会での商談確率の高さと大手百貨店などのバイヤーとの商談」の手応えの感想である。展示会終了後のアンケートでは、今年出展された事業者全員が、令和6年度も出展を希望されていました。また、商談件数などについては、資料掲載の【成果】を説明した。
- ③ 三原プリンププロジェクト-~~(仮)~~-は、三原商工会議所が主体となって進める三原プリンププロジェクトは、デザート系とデリカ系に分かれている。デリカ系が弱いことから、三原市のふるさと大使に就任した「クマガイキハチ」様に監修頂きながら強化するよう計画作成し、三原市の協力をえられるよう進めています。現在は、事業計画申請段階で、明日4/26（金）が申請締切である。この他、プリンで三原市の認知度を向上させる取り組みとして、具体的なPR目玉として、来年の三原神明市祭で、プリンストリートとして大きく全国にPRする予定と説明した。

【津村委員】；「せとなか百貨店」について

昨年度の①営業実績、②HPを改良した点、③周知実績、④今年度の方針（改良、周知、営業目標）などに教えて欲しいと述べた。

【事務局】（今富裕太指導員）；

今富裕太指導員は、配布資料に基づき、「せとなか市場」での令和5年度の実績、改良点、周知実績、今年度の方針などを説明した。

【梅本会長】；梅本委員長から出席者委員に対し、順次意見、質問等を求めた。

【恵谷委員】；ECサイトについて、サイトを立ち上げ、運営を行っても出品する事業者自身の本気度が試されると感じている。若者向け商品の取扱いがあるかについて、質問があった。

【事務局】（今富指導員）；

若者向け商品の取扱いについて、現在すぐに思いつくことができず、恵谷委員のご意

見を参考にして見直してゆきたい、と回答した。

【津村委員】；公庫では、年2回連絡協議会を設けて、情報交換などを行っており、本年も例年通り年2回の実施を予定している、と述べた。

【川相委員】；伴走支援にあたり、専門家派遣については県連DX化でも確保できることから、不足するようなら是非利用して欲しいと述べた。

【平畑委員】；怪獣レモン（怪獣ゴジラパッケージの規格外の大きなごつごつしたレモン商品）のアイデアを参考にするなど、発想豊かな商品とネーミング作成などを考えたい。

【増田委員】；商工会が運営する「せとなか百貨店」について、キーワード検索で「せとなか」はヒット率は低いのではないかと？

さらに、費用対効果を考えると、とても合理的ではないのではないかと。

例として、ヤフーオークションなどを利用する方が手数料は低く抑えられのではないかと、といった意見が述べられた。

【事務局】（藤井課長）；

検索キーワード「せとなか」については、再度検討することとした。

また、費用対効果については、小規模事業者は自社でECサイトの立ち上げ、運営、管理などが課題であり、その課題を踏まえて立ち上げた商工会サイトに各事業者の商品・サービスを掲載するといった支援で売上を獲得する目的であること、さらに手数料負担についても、小規模事業者の現状を踏まえながら取扱いなどを説明した。

【伊豆田委員】；WEBサイトの運営には、高度な専門性が要求される。近ごろ、ネット検索をする中でのピンポイント広告は、ふるさと納税などともリンクしている。商品自体の競争力も必要であることを踏まえ、伴走支援をしっかりと行っていく必要がある。

事業者フォローに一定の時間を要することから、県連を含め、内部の抜本的業務の見直しとDX化を進めていく必要があると締めくくった。

【梅本会長】；梅本会長は、その他添付された資料について、事務局に説明を求めた。

【事務局】（中川貴洋指導員）；資料3について説明

中川貴洋指導員は、令和5年6月期から令和6年3月期までの三原市の景況調査について、説明を行った。

【増田委員】；増田委員から、以下の質問ならびに要望がされた。

- ①三原市内の業況について、予想していた以上に悪い。
- ②上記①について調査サンプルについて、母数や業種などを記載して欲しい。
- ③資料は、カラーでお願いしたい。

【事務局】藤井課長は、増田委員の質疑に対し、以下の通り回答を行った。

業種ごとの調査サンプルについては、後日の回答とし、今後資料はカラー対応すると述べた。

【事務局】（大元指導員）；資料4について説明

日経MJについて、2023年をまとめと2024年のキーワードを報告した。

【梅本会長】；梅本会長は、その他の意見などがないかを確認を求めた。

【事務局】（大元指導員）；

改めて、令和5年度実績を振り返り、次年度の伴走型支援を効果的に進めるための取り組みとして、令和6年度に見直しをする点について説明を行った。

主な見直しは以下の通り。

①専門家派遣回数増加

（計画策定4回→8回、策定後の実施支援6回→8回、新たな需要開拓に寄与する事業4回→8回）

②インターネット会議2回→1回

③都内T A Uでの試食等アンケート調査

【梅本会長】；梅本会長は、以上、意見が尽くされたと判断し、令和5年度経営発達支援事業ならびに、令和6年度見直し案等について、事務局（案）でよいかと議場に諮ったところ、満場一致で可決した。

閉会にあたり副委員長の恵谷委員からあいさつがあり、会議を終了した。

時に14時45分